

●●● 命の尊さを学び、祈りを届けるために ●●●

芦屋市立精道小学校

1 はじめに

芦屋市立精道小学校は、北に六甲山、南に瀬戸内海があり、自然に恵まれた南北に長い芦屋市にあります。市内でも中央部に位置する本校は、明治5年9月創立以来、136周年にもなる歴史の古い学校です。学級数22、児童数643名が在籍しています。

平成19年12月18日には、新校舎が完成しました。

玄関ホールには、建て替える前の震災に関するものを、展示する「展示コーナー」を設け、阪神・淡路大震災で亡くなった児童の遺品等を展示しております。

建て替え後には、展示コーナーに収蔵できない大きなものを展示するため、空き教室を「震災資料室」として活用し、手紙や当時の写真、自衛隊の救助風景の写真やボランティアによる活動風景

の写真などを収蔵しています。

本校では、平成7年1月17日（火）兵庫県を襲った阪神・淡路大震災において、8名の児童及び6名の保護者の尊い命が奪われました。校庭東側には子供たちをいつも見守るように祈りの碑が建てられています。

2 防災教育

防災教育に関する1年間の主な取り組みとして、次の訓練行事等を行っています。

- (1) 授業参観（防災授業）・引き渡し訓練
- (2) 防災訓練（地震・津波）・総合訓練
- (3) 語り継ぐ会
- (4) 追悼式
- (5) 祈りを届ける会



慰霊碑の前で黙祷



(1) の授業参観（防災授業）・引き渡し訓練は、毎年5月の土曜参観日に2時間の授業参観を予定しており、その内の1時間は防災に関する授業に全職員で取り組み、その際、各学年が前年度の学習を踏まえて工夫しながら授業を組み立てます。阪神・淡路大震災に関するビデオや市の防災安全課から借りた避難用リュックサック、防災マップ、亡くなった児童の日記などいろいろなものを教材として活用し、保護者も子ども達と一緒に防災を考える機会としています。

授業参観後、すぐに引き渡し訓練を行い、大災害や緊急事態が発生したときに、児童の引き渡しをスムーズにするための訓練です。

この訓練は、学校側が児童を引き取りに来る人を知らない想定で行い、より確実に児童の引き渡しを行うことを目的としてクラスごとの担任教師による引き渡し訓練を行っています。

(2) の防災訓練（地震・津波）・総合訓練は、想定地震の揺れが始まり次第、直ちに避難誘導をします。その後、地震による津波が発生したという想定で校舎3階に避難します。避難終了後、各学年に分かれて、体験的な総合防災訓練を行います。

因みに、平成20年度は、11月28日に芦屋消防署及び芦屋市防災安全課の協力により、①1、3年…煙道体験 ②2年…防災についてのビデオ学習 ③4年…水消火器による消火体験 ④5年…バケツリレー体験 ⑤6年…三角巾を使った応急処置法を学びました。

(3) の語り継ぐ会は、6年生が地域で起こった震災について学んだことを5年生に伝える学習の一つで、平成16年度に総合的な学習時間の中で始まり、平成20年12月22日には5回目を迎えました。

震災当時の教頭や教師、当時4年生であった卒業生をゲストとして招き、その時の学校の様子、被災状況や震災での思いなどを丁寧に語られる姿が印象的でした。

児童は、震災について調べてきたことや考えたことを体育館において2時間かけてパネルや模型を使い、震災の被災状況などを伝えていきました。全9グループがポスターセッション形式で行いました。各コーナーの発表時間は6分とし、語り継ぐ会での9テーマは、①芦屋の被害の様子、②避難所の暮らし、③ボランティア、④送られて来た物、⑤学校の様子、⑥復興に向けて、⑦1.17行事、⑧防災・減災、⑨地震のメカニズムでした。

ただ単にテーマについてわかったことを伝えるだけでなく、ゲストの卒業生からの話などこれまでの学習の中で考えたことも関連づけて必ず発表内容に入れるようにしました。

会の進行や全体会での話も役割分担し、子ども達で進めました。6年生の子ども達には、5年生にどれだけ伝えられるだろうかという不安もありましたが、真剣に聞いてくれたことが感じられ、これからも伝え続けることが大切だと思えることができました。また、子ども達は、追悼式後も父親を亡くした卒業生の体験談を真剣に耳を傾け、聞き取り学んでいきました。

全大会を、語り継ぐ会の始めと後に設けて、5年生全体に向けて6年生が始めの言葉や終わりの言葉を言ったり、6年生の各グループ発表のまわり方を説明したりする会です。

(4) の追悼式は、1月16日に行い、追悼式の祭壇は16日の午前4時に設置し、翌17日の午後8時まで設けていました。17日の朝の午前5時46分には、親族の方、地域の方と共に6年生の児童数名と保護者の方もろうそくが灯された慰霊碑の前で黙祷しました。

毎年、全校児童が震災のことを学び、追悼式を行ってきました。この追悼式は、“震災で失われた命に対しての追悼”という意味はもちろんですが、本校にとって「命の大切さ」を考える特別な機会として大切にされてきました。

しかし、震災から14年も経ち、震災のことを知



らない子ども達が増えてきています。6年生でも生まれておらず、震災の記憶はなく、震災後に生まれた子ども達なのです。そこで、6年生がこの地域での震災の様子を学習し、下級生に語り継ぐ場を持ち、震災から学んだ「地震の恐ろしさ」、「命の尊さ」や「人と人との助け合い」などを風化させずに伝えていく取り組みを行い、6年生が主体となった「追悼式」を進める取り組みへと繋がっています。そして、「命の大切さ」を学ぶ場として、「追悼式」を捉え、全学年が「追悼式」に向けた取り組み・震災についての学習を行い、「追悼式」へと参加していきます。

(5)の祈りを届ける会では、児童会主催の取り組みとして、ペア学年による千羽鶴作りを行い、震災で尊い命を奪われた8人の友達への思いをメッセージにこめて作り、追悼式においてお供えます。折り鶴と一人ひとり心を込めて作った献花を燃やし、亡くなった人たちに自分の思いを届けます。



6年生から5年生にむけて「語り継ぐ会」

ペア学年とは、1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生が行事のあるごとに、一緒に折り鶴を折ったりといろいろな取り組みをします。

3 おわりに

本校の追悼式や震災学習の取り組みは、この地域や精道小学校に思いを寄せる人々の力や願いによって支えられていることを決して忘れてはならないと思います。この精道小学校にとっての“財産”をこれからも大切にしていきたいと強く願います。

毎月17日は、地域の方が必ず慰霊碑の前に花をたむけられる姿を間近に見て14年経った今も「震災はまだ終わっていない…」と強く実感させられます。今を生きる私達は、どう生きるべきなのか。そして、今後、子ども達と共にどのように学び、精道小学校で起こった震災について語り継ぎ、広げていくのか、私達に突きつけられたものは、ずしんと重く感じました。



祈りを届ける会